

テーマ 内なる心の世界と外なる世界の交流

適用分野

幻想的文学作品の対象関係論・自己心理学のモデルを用いた分析、現代文学のもつ心の歪み、トラウマなどへのこだわりの理解



研究名称

村上春樹作品の自己愛的特徴の研究
夢野久作、萩原朔太郎、宮沢賢治などの幻想文学の研究
安部公房とシュルレアリスム

氏名所属

田中雅史 教授
文学部 日本語日本文学科

内容

●特徴

精神分析を文学研究に利用する試みは広く行われているが、フロイト以降の精神分析理論の展開、特に前エディプス期という現在非常に重要視されている心の発達段階を視野に入れたものは、まだ少ない。私の研究は、英日の比較文学や現代の日本文学の理解に、こうした観点を盛り込もうとするものである。作品中の幻想的要素に焦点を当て、メラニー・クラインやウィニコット、さらにはコートの自己心理学などの成果を応用して、その自己愛的な特徴を解明していく研究を行っている。このような研究を行うことで、文学・芸術の創作過程を従来とは違った観点から見直し、それを現代の若者の心の問題とつなげて理解できる可能性があると思われる。

●研究内容

作家の描く幻想的世界には、作家の精神内界が反映していることがある。最近の論文では、村上春樹の長編小説をいくつか取り上げて、その自己愛的な特徴と作者の示す解決の方向について考えている。

そこには養育者、特に母親からの分離という、発達心理学でよく取り上げられる危機的状況とよく似たものが見られる。対象関係論や自己心理学のモデルを文学作品の分析に使うことで、そのような特徴ははっきりと浮かび上がってくる。これは村上春樹以外の多くの現代の作家に言えることである。こうした作品の理解は、現代の若者の心の変化について理解を深める手がかりとなりうる。

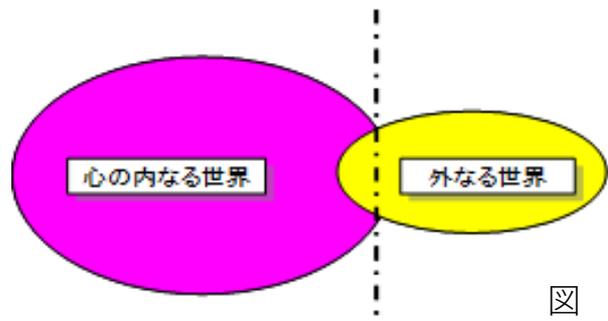


図 心の内と外

キーワード

内的世界と外的世界、主体性 (subjectivity)、村上春樹、対象関係論、シュルレアリスム

連携方法

- 講演
- 研修
- 研究相談
- 学術調査
- コメント
- 共同研究